

# ユニバーサルデザインの考え方を生かした授業づくり

宇部市立原小学校

教諭 福永 博一

## 1 はじめに

私たち教師は社会構造の変化や価値観の多様化が著しい中で、日々、様々な課題を抱える子どもたちと向き合い、数多くの悩みを抱えながら、子どもたちを育てようとしている。本校の子どもたちは、他者に責任をあてがう傾向が強く、自らを律し、自ら判断して行動することの困難さを抱えている。

そのような中、私たち教師は、子どもを教育の正面に据え、子どもの学びを育てていこうとしている。そして、基本的に“子どもたちは、「やってみたい」「やり遂げたい」「みんなと共に歩みたい」と願っている”という、肯定的な教育観で子どもたちを捉え、子どもたちから笑顔が溢れるような学校にしていこうと取り組んでいる。このような教育観の下、私たち教師が子どもたちの「わかる・できる授業」に焦点をしぼって授業をデザインしていくことは本校の子どもたちの成長にとって必要不可欠であると考えた。そこで、本実践では授業のユニバーサルデザイン化を図っていった。

## 2 授業のユニバーサルデザイン化について

授業のユニバーサルデザイン化をしていくには、大きく4つの視点がある。

- 授業を焦点化（シンプル）にする
- 授業を視覚化（ビジュアル）にする
- 授業で共有化（シェア）する
- 授業をスモールステップ化する

焦点化とは「ねらい（内容）や活動を絞る」ことである。学習内容をシンプルにして1時間の授業の中でつけたい力と学習内容をしぼることで、より確実にねらいを達成でき、学習内容が定着すると考える。また、授業をする教師としても、その単元、時間で端的に何を学ばせればよいかポイントを絞ることで、指導方法や教材の工夫がしやすくなり、子どもたちへの個別の言葉かけもしやすくなる。

視覚化とは「視覚的な手掛かりを重視して授業を構成する」ことである。授業において、見えないものが見える化していくと、子どもたちの中にイメージが湧きやすくなり、その結果たくさん気付きが生じてくる。古くから特別支援教育の場では「視覚的援助(支援)」と呼ばれた手法である。また、「何をどう見せるか？」という視点で捉えると、焦点化と大きくかわり、授業の流れそのものにも影響する。

共有化とは「お互いの考えを伝えあったり、確認したりする」ことである。授業の活性化をはかるだけでなく、理解できる子にとっては自分の思いをより深めるチャンスになる。また、理解や技能に不安が残っている子にとっては、他者の意見から自分の思いの足りない部分を補って理解し取り組むチャンスになる。

スモールステップ化とは「目標達成に向けてのステップを細かくする」ことである。これは、課題達成のための踏み台をつくる作業といえる。この踏み台を一人ひとりの状態に応じて提示していく。提示できる踏み台は、教師側の引き出しの多さにかかっている部分もある。発達障害の子どもたちが消化できるように半段分に指導を細かく分けることができる。さらに他の子どもたちには少し大きめの1段分のものも用意しておく。つまり、わかる・できるようにするための内容をステップ化し、用意するということである。

### 3 授業の実際（1）「道徳科の授業実践」

○主題名 本当の親友とは？～磨き合い、高め合う親友～ 【B 友情、信頼】

○教材名 「ロレンゾの友達」（きみがいちばんひかるとき 道徳 6年 光村図書）

○学習について

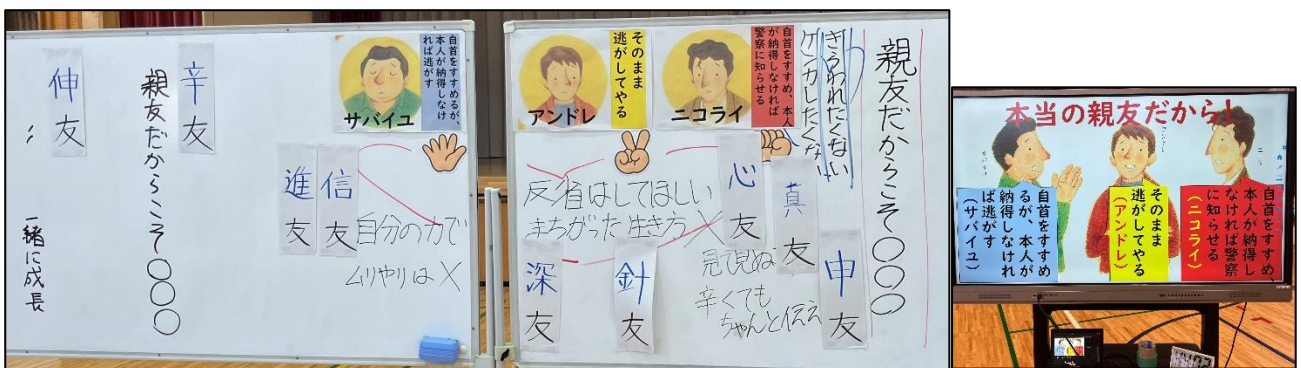
本主題は、人間関係を深めるための友人の在り方として、互いに磨き合い、高め合う友情観を育てることをねらいとしている。私たちの抱く友情観は一人ひとり違う。例えば、「何でも話せる」「お互い気を遣わずに過ごせる」「苦しい時に助けてくれる」などである。しかし、私たちの実生活を振り返ってみると「こんなことを言ったら嫌われるのではないか」「相手が嫌な思いをしないだろうか」「親友も大事だけれど、周りの目が気になる」など、真の友情観とは程遠い感情が生まれることもある。本学習では、このような感情を理解しながらも、それを乗り越え、互いに磨き合える友情観、互いに高め合える友情観について、子どもたちと話し合っていきたい。

本教材は、罪を犯したのではないかと噂が回ってきた親友のロレンゾに対して、どのように関わるべきか悩む3人の親友アンドレ、サバイユ、ニコライの立場から、友情観について考えを深めていくことができる教材である。もし、ロレンゾに会ったら、「そのまま逃がしてやる」というアンドレ。「自首をすすめるが、本人が納得しなければ逃がしてやる」というサバイユ。「自首をすすめるが、本人が納得しなければ警察に知らせる」というニコライ。一見すると、全く違う友情観をもっているように見えるこの3人の考えの根底には、行動は違っても本気でロレンゾのことを思い、考えているという共通の友情観が存在する。つまり、この根底に存在する友情観に目を向け、話し合うことができれば、教材の中にある磨き合い、高め合う友情観に気付き、自己の生き方についての考えを深めていくことができると考える。

磨き合い、高め合う友情観について考えを深めていく学習を行う本学級の子どもたちは、これまで友人関係で多くの悩みを抱え、トラブルを乗り越えてきた経験がある。そのような中で、人間関係が固定化し、親友だからこそ思っていることを言えなかったり、過剰に気を遣い過ぎたりする様子が見られる。また、これまでの学習の様子から、自分の思いや考えを表現することに恥ずかしさを覚え、本時のねらいに対する話合いが十分にできないことも想定される。

このような子どもたちが本教材を通して主題に迫っていくために、次の点に留意して学習を進めていきたいと考えている。

- ・長い教材文であることから、友情観について考え、話し合う時間を十分に確保するために、教材文は事前に読み、本時のはじめには簡単に人間関係を整理する程度にする。【焦点化】
- ・「3人のうち、親友と呼べるのは誰か」と比較しながら友情観を出し合うことで、行動は違っても、その根底には共通の友情観があることに気付けるようにするために、子どもたちの意見を分類しながら、構造的に板書としてまとめていく。【視覚化・共有化】
- ・自分の思いや考えを表現することが苦手な子も含めて、全員で意見を交流できるようにするためにペアや自由なグループで意見を表出しながら、全体に広げていけるようにする。【共有化】



○ 本時案

【日時：令和5年10月18日 5校時 於：体育館】

- (1) ねらい 親友にどのように関わるべきか悩む友情観について話し合うことを通して、磨き合い、高め合う友情観についての道徳的判断力を高める。
- (2) 準備物 挿絵、ワークシート
- (3) 学習過程

学習活動・学習内容	教師の発問・子どもの意識の流れ	○指導上の留意点
<p>1 これまでの自分の友情観について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの自分の友情観</li> <li>・価値への方向付け</li> </ul>	<p>「あなたにとっての親友とはどの□友ですか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心友。心がつながりたいから。</li> <li>・深友。関係が深まっていきたいから。</li> </ul>	<p>○本時の学習内容へ方向づけるために、既習事項の「□友（しんゆう）」に当てはまる言葉を考え、今現在の友情観を交流する。</p>
<p><b>本当の親友だからこそ、「そこにあるもの」とは何なのか？</b></p>		
<p>2 事前に読んでおいた、教材「ロレンゾの友達」に出てくる三人の友情観について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の友情観の比較</li> <li>・自分自身と登場人物の友情観の比較</li> <li>・高め合い、認め合う友情観の明確化</li> </ul>	<p>「3人の中でロレンゾにとって本当の親友と呼べる人は誰ですか？」</p> <p>①A: 親友を警察に連れて行くのは裏切っている。S: 警察に行くかどうかは本人が決めるべき。N: 罪は罪として償うべき。</p> <p>②③A: 他親友から嫌われたくなかったのでは。自親友を信じていたからこそ。S: 他自分で親友の人生を決めてしまいたくない。自親友なら、自分の判断で罪を償ってくれるはず。N: 他共犯になるのが怖い。自親友には苦しい思いをしたまま生きてほしくない。</p> <p>「3人の中で共通している『そこにあるもの』とは何ですか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親友を本気で思う心</li> <li>・親友を最後まで信じる心</li> <li>・親友には心がモヤモヤして生きてほしくないということ</li> </ul>	<p>○「行動→心情→価値」の3階層を意識して発問し、子どもたちの発言を整理し、板書していくことで、友情観を掘り下げて考えられるようにする。観費</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①どの行動が親友としてふさわしいか ②その行動をした時の○○の心情は ③そうすることにどんな価値があるのか</p> </div> <p>○考えを深めたり、自分の考えを表現したりする場を設定するために、ペアや自由に立ち歩いて友達と考えを話す機会を設定する。費</p> <p>○子ども同士で考えを深めていけるようにするために、自分の理解度や納得度を指で表したり、友達の発表したことを改めて表現し直したりする場面を設定する。費</p>
<p>3 自分の生活を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より良い友人関係を構築していくために、これから大切にしたいこと</li> <li>・友達との考えの共有</li> </ul>	<p>「今のあなたの親友と『本当の親友』になるためには何を大切にしなければいいですか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの自分は親友に嫌われたくないって気持ちが大きかったな。他の人の意見も知りたいな。</li> </ul>	<p>○友情観の多様性を実感し、これからの生活に生かせるようにしていくために、友達同士で考えを共有し、同じ学習をしても様々な友情観が生まれていることに気付けるようにする。</p>
<p>4 教師の説話</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習のまとめ</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本当の親友になるには、「嫌われたくない」「言っても大丈夫が怖い」という心を乗り越え親友には「心がモヤモヤ生きてほしくない」「本当に親友のためになっているのか」と思って判断できるかが大切だと思った。</p> </div>	<p>○どう振り返ったらよいか分からない子のために、友達と相談したり、先にふりかえりを書いた子の意見を参考にしたりできるように声かけをする。</p>



【道徳科における公開授業の様子】

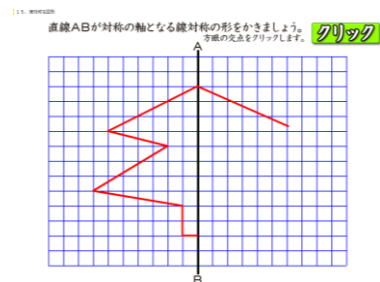
#### 4 おわりに

今年度は特に道徳科の授業の中でユニバーサルデザインの考え方を生かした授業実践を行っていった。「考え、議論する」という道徳科の特性を考えた時に、この議論している内容を視覚化したり、何について議論するのか焦点化したり、全員が同じ土俵にあがることができているかスモールステップ化したり、学んだ内容や考えている内容を共有化したりと授業のユニバーサルデザイン化は大変効果的であった。

また、紙面の関係で全て載せられないが、他の教科においても授業の中にユニバーサルデザインの考え方を取り入れていくことは子どもの「分かる・できる」を促していく上で価値がある。特に視覚化の面においては小学校段階では、「何をどう見せるのか」によって授業の質が大きく変化すると感じた。その際、校務用のタブレットにはインストールできないソフトやフィルタリングがかかってしまうサイトなど、使いたいのに使えず残念な思いをしたことも多かった。今回の研究では、この点を補填する意味で別途タブレット PC を準備して授業実践を行うことができたことは大変ありがたかった。今後もさらに効果的な授業づくりに向けて研修を進めていきたい。



【作成した視覚的教材】



【導入したソフトの一例】